

令和6年度 第14回

風雅を楽しむ春の集い

日時 令和6年5月12日（日） 午後1時開会
会場 高知市南部健康福祉センター2F・Aホール

鵬翔流吟友会 理念

千詩万詠して心身を磨き

古今の風雅に親しみ遊びては

花鳥風月を友とし天恵に謝す

先人古哲の精神に学んでは

礼と節とを以って人間陶冶に努める

自ら心魂洗い浄めて

真善美全き世界を求むるは

是、愛と誠の鵬翔会なり

鵬翔流吟友会 会詩

提携ていけい 師友しゆう 鷗盟おうめい を結むすび

偏ひとへに詩歌しにかを探さぐつて妙聲みょうせいを琢みがく

風雅ふうがの精神しんせい 承継しょうけいを誓ちかい

更さらに期きす吟道ぎんどう 百年ひゃくねんの誠まこと

大会係り役員

大会会
大会副会
大会副会
大会実行委員会
大会実行副委員長
大会実行副委員長
大会事務局

会場準備

受付案内

感染症対策

梶田 鵬翔
飯田 鵬祥
山中 鵬清
川添 鵬雄
笹岡 鵬俊
川添 鵬雄
宝蔵 瑤光
笹岡 鵬俊
横山 熙光
大野 正翔
西村 雄紫
川添 鵬雄
(屏風運搬)
中西 鵬篤
山村 彩光
川村 鵬泉
川村 鵬泉
山村 彩光
山村 彩光
川村 鵬泉

会費会計

接待

司会

会場進行

音響

記録広報

飯田 鵬祥
宝蔵 瑤光
川村 鵬泉
戸田 燁紫
飯田 鵬祥
松木 鴻光
松代 怜翔
戸田 燁紫
笹岡 鵬俊
大野 正翔
西村 雄紫
山中 鵬清
横山 熙光
川添 鵬雄
戸田 燁紫

「風雅を楽しむ春の集い」 式典

（敬称略）

(一) 開会挨拶

山中 鵬清

(二) 鵬翔流吟友会理念朗読

先導

笹岡 鵬俊

(三) 鵬翔流吟友会会詩合吟

先導

中西 鵬鷲

(四) 会長挨拶

梶田 鵬翔

(五) 来賓挨拶

六六庵吟詠会高知県本部 本部長

上本 竹永

高知県県議会議員・鵬翔流吟友会顧問

西内 隆純

高知市市会議員・鵬翔流吟友会顧問

竹村 邦夫

鵬翔流吟友会後援会 会長

近森 憲一

第四部

構成吟 「日本の名城」

- | | | | | |
|----|-------|-----|--------|---------------|
| 10 | 芸者ワルツ | (舞) | 土佐ふじ和流 | 下村優心 |
| 11 | 佐渡おけさ | (舞) | 君由美会 | 楠瀬智恵子
楠瀬妙子 |
| 12 | 舞子はん | (舞) | 土佐ふじ和流 | 下村望乃 |
| 13 | 風の盆恋歌 | (舞) | 花柳流 | 中岡あき |

日本には、古くから四、五万ともいわれる沢山のお城がありました。戦国時代や明治の廃城令などによってそのほとんどが失われました。江戸時代以前から残っている現存天守は十二城のみで、そのすべてが数々の危機を乗り越えてきた奇跡的な存在です。このうち「姫路城」「彦根城」「松本城」「犬山城」「松江城」の五城が国宝に指定されています。では、しばしの間、吟詠と、歌謡吟詠で名城、その歴史の旅をお楽しみ頂きましょう。

- | | | | | | |
|----|----|----|-------|------|------|
| 14 | 古城 | 作詞 | 高橋掬太朗 | 高須教室 | 横山照光 |
|----|----|----|-------|------|------|

「松風騒ぐ丘の上古城よひとり何しのぶ・・・」石川県七尾城跡に古城の歌碑が建てられています。七尾城は戦国時代、能登の国 畠山氏によって築かれ、上杉謙信によって落城その後 前田利家が入城するも城替えにより役目を終え現在は城跡のみとなっています。

松山城

作詞

小原六六庵

宇佐教室

大野正翔
西村雄紫

松山城は関ヶ原の戦いの戦功により、二〇万石の大名となった加藤嘉明が、一六〇二年着手、四半世紀の歳月をかけて築城、そしてこの地を「松山」と呼ぶこととしたとあります。
松山市の中心部、勝山山頂に本丸、西南麓に二の丸、三の丸を構え、道後平野を一望できる平山城である岡山県の津山城、兵庫県の姫路城と並び、日本三大平山城のひとつです。

名古屋城

作詞

松口月城

東雲教室

松木鴻光

織田信長誕生之城とされる、今川氏築城の那古野城（現在の名古屋城）のあと周辺に、徳川家康が天下普請によつて一六〇九年に新たに築城され、明治維新まで、徳川御三家の筆頭とされる尾張徳川家の一七代までの居城であつたとされています。大阪城、熊本城とともに日本三名城に数えられ、伊勢音頭では「伊勢は津でもつ津は伊勢で持つ、尾張名古屋は城でもつ」と詠われています。大天守に上げられた金鯱は城だけでなく名古屋の街の象徴となっています。

会津若松城（白虎隊）

作詞

佐原盛純

東雲教室

宝蔵瑠光
戸田燁紫

福島県会津若松市にあるこの城は一三八四年、南北朝時代に築城され別名鶴ヶ城とも呼ばれています。一五九三年、蘆名直盛によつて本丸を中心に西出丸、北出丸、二の丸、三の丸が周囲に配置され、会津藩の政庁として会津政治の中心でした。藩主の会津松平家は、徳川將軍家と密接な関係にあり、幕末には戊辰戦争の激戦地となつたのです。白虎隊は幕末に会津藩が組織した、中国の神獣「白虎」に由来する一六歳から一七歳の武家の男子からなる部隊、あどけなさを残す少年らの命をかけた壮絶な戦いでした。

18 高知城

作者 上本竹永 高須教室 山村彩光

戦国時代以前には大高坂山城とよばれる城が築かれていた、土佐の戦国大名として台頭してきた長宗我部元親が岡豊城から本拠地を移そうとしたが、工事が難航し浦戸を拠点としました。関ヶ原の戦いで敗れた長宗我部は改易され、山内一豊が土佐国を与えられ、土佐藩を立てたとされています。一豊は大高山で一六〇一年築城着手、一六〇三年には本丸、二の丸が完成するが、城全体の完成は一豊没後の一六一一年で、二代目藩主の忠義の代になっていた三層六階の天守各は、一豊が転封前に居城としていた静岡県 掛川城を模したと言われています。

19 姫路城（白鷺の城）

作詞 市川昭介 南国教室 笹岡鵬俊

姫路城は南北朝時代、赤松貞範によって築城されたとされています。当時の城は砦のような小規模なもので、城郭に相当する規模となつたのは、戦国時代後期に黒田重隆による築城とされている、黒田氏や羽柴秀吉が城代になると、山陽道上の交通の要所に置かれた姫路城は本格的な城郭に拡張され、関ヶ原の戦いの後に城主となった池田輝政によつて、今日のような大規模な城郭となり、天守閣の置かれている「姫山」は古名を「日女路」ひめじと称しました。大國主命の船が嵐により転覆、積み荷の蚕子（ひめこ）が流れ着いたのが名前の由来とされている、城の代表紋は由来のあるアゲハ蝶で有名です。

第五部

歌謡吟詠

20	桂小五郎と幾松	作詞	榊原帰逸	高須教室	公文鵬翠
21	空海	作詞	横井弘	高須教室	山中鵬清
22	人生城	作詞	石本美由起	高須教室	川添鵬雄
23	春の夜	作詞	わたなべけい	高須教室	飯田鵬祥

第六部 絶句「風雅をつむぐ」(その二)

24	和歌 くれないの	作者	正岡子規	宇佐教室	中西鵬鶯
25	従軍行	作者	王昌齡	東雲教室	松木鴻光
26	湖上に飲す	作者	蘇軾	宇佐教室	大野正翔
27	清平調子(その三)	作者	李白	蒔絵台教室	松代怜翔
28	春望	作者	杜甫	南国教室	西山匠翔
29	母を奉じて嵐山に遊ぶ	作者	頼山陽	長浜教室	川村鵬泉
30	元二の安西に使いするを送る	作者	王维	南国教室	笹岡鵬俊

第七部 指導者・役員吟詠「吟情泉の如く」

31	落花	作者	徳富蘇峰	宇佐教室	中西鵬鶯
32	鍾山即時	作者	王安石	高須教室	川添鵬雄
33	桑乾を渡る	作者	賈島	高須教室	飯田鵬祥
34	山中の月	作者	藪孤山	高須教室	山中鵬清

第八部

来賓「華麗なる吟と舞」

(順不同)

35 親を夢む 作者 細井平洲 明德義塾高校日本クラブ

36 雪 梅 作者 方岳 高知県漢詩連盟理事 内田紫紅

37 お祭りマンボー (舞) 土佐ふじ和流 矢野舞那

38 おりよう (舞) 花柳流 中岡あき

39 浪花節だよ人生は (舞) 君由美会 青木美和 楠瀬智恵子 楠瀬妙子

40 龍馬しぐれ (舞) 土佐ふじ和流

第九部

会長吟詠

41 七久里紅葉狩り 作詞 山上武夫 鵬翔流吟友会会長

梶田鵬翔

42 我が道 作詞 二木葉子 鵬翔流吟友会会長

梶田鵬翔

43 三百六十五歩のマーチ

閉会の挨拶

川添鵬雄

三百六十五歩のマーチ

(一)

幸せは歩いてこない だから歩いていくんだね
一日一歩三日で三歩 三歩進んで二歩下がる
人生はワンツーパンチ 汗かきベソかき歩こうよ
あなたのつけた足跡にや 綺麗な花がさくでしょう
腕を振って足をあげてワンツー・ワンツー
休まないで歩け ソレワンツー・ワンツー・ワンツー

(二)

幸せの扉は狭い だからしゃがんで通るのね
百日百歩千日千歩 ままになる日もならぬ日も
人生はワンツーパンチ 明日の明日はまた明日
あなたは何時も新しい 希望の虹を抱いている
腕を振って足をあげてワンツー・ワンツー
休まないで歩け ソレワンツー・ワンツー・ワンツー

(三)

幸せの隣にいても 分からない日もあるんだね
一年三百六十五日 一歩違いでにがしても
人生はワンツーパンチ 歩みを止めずに夢みよう
千里の道も一歩から 始まる事を信じよう
腕を振って足をあげてワンツー・ワンツー
休まないで歩け ソレワンツー・ワンツー・ワンツー